

施策評価シート(平成31年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0205	政策名	福祉の充実	施策主管課	長寿福祉課	課長名	佐藤 拓史
政策の目指す姿	慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らしています						
施策No	02	施策名	高齢者福祉の充実	関係課名	東和市民サービス課		
施策の目指す姿	高齢者が元気で生きがいを持ち、安心した生活を送っています						
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の多くが趣味や生きがいをもって生活していますが、高齢者が持つ能力や技術を地域福祉活動に十分に活かしていない状況です。</li> <li>・要介護等認定者や認知症高齢者の増加により、介護サービスにかかる経費が増加しています。</li> <li>・介護や福祉サービスの利用に関する相談や高齢者虐待が疑われる事例など高齢者に関する相談件数が増加しています。</li> </ul>							

前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者在宅生活支援事業は、高齢者のサービスとしては、必要であるものの類似の総合事業への一体化によるサービスの拡充を行う必要があることから事業の検証を図る。</li> <li>・新たな地域団体の立ち上げや既存の地域団体への働きかけ、支援を要する方への周知に加え、ボランティア養成研修修了者に対して意見交換の場の提供やボランティア組織の立ち上げなどについての様々な取り組みへの支援に努める。</li> <li>・地域における老人クラブ活動や社会参加活動について、通いの場やいきいきサロンなどで丁寧な周知に努める。</li> <li>・介護人材確保事業における奨学金返還の一部補助の利用に関し、補助の方法について利用者に使いやすい方法の検討と周知に努める。</li> </ul>
反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度生活援助事業における草取りや除雪など委託事業者と利用対象者や事業内容見直し検討を行い軽度生活援助事業実施要綱の改正を行うこととした。</li> <li>・既存地域ボランティア団体9地区へ35回の事業支援を行うとともに、市内の地域にて総合事業の説明会を16回367人へ実施し制度の周知に努め、新たに地域団体の立ち上げに意欲があった5地区へ説明会を行い、今年度60名のボランティア養成研修の修了者となり、2つの新たな地域団体の設立へとつながった。</li> <li>・今年度108ヶ所の通いの場、236ヶ所のいきいきサロンにおいて事業の周知を実施した。</li> <li>・補助金返還方法の見直し及び要綱の改正を行うとともに、「介護のお仕事セミナー」において周知を実施した。</li> </ul>

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 高齢者の社会参加の推進 地域における生活支援の担い手となる組織の支援 ・いきいきサロン事業や老人クラブ活動への補助
(2) 高齢者の生活支援の充実 高齢者の生活支援サービスの充実 ・草取りや除雪の軽度生活援助、住宅改造事業、高齢者タクシー券給付事業による支援 高齢者の保護措置の適切な実施 ・養護老人ホームへの措置、高齢者虐待対応 高齢者の権利擁護制度の推進 ・認知症高齢者などに対する成年後見制度による支援 高齢者の包括的な支援の推進 ・地域ケア会議による個人に対する包括的支援の検討を行い困難事例等に対する適切な支援
(3) 高齢者の健康づくりの推進 通いの場の立ち上げ支援など、介護予防の充実 ・各地域の通いの場の継続や立ち上げ支援、介護予防教室などの開催 認知症の早期発見・早期治療の推進 ・認知症初期集中支援チーム、徘徊高齢者SOSネットワーク、認知症サポーター養成講座の実施
(4) 介護サービスの充実 介護サービス施設の計画的な整備 ・地域密着型特別養護老人ホーム、グループホームの整備 地域支援事業の充実 ・介護予防・日常生活支援総合事業を行うための生活支援を担うボランティア養成、地域ボランティア団体へ支援 介護サービスの質的向上 ・介護サービス施設の運営推進会議への出席による指導助言
(5) 在宅医療介護の連携推進 在宅生活を支える医療介護関係者の連携推進 ・多職種関係者の顔が見える関係づくりと課題協議検討

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H28	H29	H30	H31	R02	R03
生きがいを持って暮らしている高齢者の割合	生きがいを持って暮らしている高齢者の割合を示す指標	出典：市民アンケート あなたは、生きがいを持って暮らしていると思いますか？ (1)そう思う (2)どちらかというと思う (3)どちらかというと思う (4)そう思わない (5)そう思わない (5)どちらともいえない (1)(2)と答えた65歳以上の市民の割合	%	目標値		79.80	81.10	82.40		
				実績値		78.40	77.40	73.80		
高齢者が必要な時に必要なサービスを受けていると感じる市民の割合	高齢者が必要な時に必要なサービスを受けていると感じる市民の割合を示す指標	出典：市民アンケート あなたも含めて身近な高齢者が、必要ときに必要な介護保険や高齢福祉サービスを受けていると思いますか？ (1)受けていると思う (2)ある程度は受けていると思う (3)受けていないと思う (4)どちらともいえない (5)わからない (1)(2)と答えた市民の割合	%	目標値		75.40	76.50	77.70		
				実績値		76.20	67.40	68.60		
				目標値						
				実績値						

### 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>成果指標「生きがいを持って暮らしている高齢者の割合(A-22)」…【達成度c】 アンケートの回答「どちらともいえない」の割合が、昨年度より4.7%増加し11.7%となっているが、アンケート調査時期が新型コロナウイルス感染症の感染予防の時期と重なり、通常生きがい活動として参加している「通いの場」や生涯学習の高齢者学級が休止となり参加の機会を失ったことにより、増加したものと考えられる。</p> <p>成果指標「高齢者が必要な時に必要なサービスを受けていると感じる市民の割合(D-5)」…【達成度c】 65歳以上の方は自分自身のサービスとして関心を持っていることから76.4%と目標値とほぼ同程度であるが、65歳未満にとっては、高齢者サービスを本人のサービスとして必要性を感じていないことから「わからない」と回答している割合が20.1%と65歳以上より9.4%高くなっており、昨年も65歳未満は21.3%で65歳以上よりも12.8%高くなっており、全体として実績が低くなっている。</p>

### 4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
・なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者在宅生活支援事業は、軽度生活援助の利用について2年続けて降雪量が少なく除雪の需要が減少したため成果Cとなったが、高齢者がサービスを必要とした時に必要なサービスを継続提供できる事業が今後も必要である。</li> <li>・高齢者社会活動支援事業は、高齢者の生きがいやライフスタイルの多様化により娯楽性よりも地域貢献性の高い老人クラブの活動は敬遠されがちであるが、老人クラブ活動は地域を基盤とする高齢者の自主的な活動団体であり、社会参加活動の推進のため重要な団体と考えられるため継続的な支援は今後も必要である。</li> <li>・介護の職場における人材不足が顕著であることから、介護人材確保事業は、介護人材確保事業補助金交付要綱の改正を実施し、奨学金の対象者や奨学金返還方法を見直すことにより、学生が利用しやすい方法とした。この活用について介護のお仕事セミナーと一体で高校生などへさらに周知に努める必要がある。</li> </ul>
新たに取り組むべき事業はないか
・なし

### 5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が必要な時に必要なサービスを受けることができる事業として、軽度生活援助事業をシルバー人材センターへ業務委託して事業を行ってきた。平成30年度から介護保険サービスの総合事業として、地域ボランティア団体が行うサービスBを開始したが、事業の性質上、類似性があり、軽度生活援助事業についてシルバー人材センターと協議を行い対象者や地域でのサービス内容の見直しを進めてきたが、住み分けになっておらずシルバー人材センターと地域ボランティア団体との役割分担とともにサービス提供基準などの検討を行うことが引き続き必要である。</li> <li>・老人クラブ会員のクラブ活動に対する意見や75歳未満の若手高齢者の老人クラブに対する意識を把握し、老人クラブの方向性を定めることが必要である。</li> <li>・介護現場における人材確保のため介護人材確保事業の利用促進を図ることが必要である。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度生活援助事業の業務委託先のシルバー人材センターと介護保険サービスの総合事業として行う地域ボランティア団体との役割を整理し、サービス提供基準などの要綱改正を行い、さらなる事業構築を図る。</li> <li>・地域における老人クラブ会員の意識調査を行い今後の方向性の検討を図る。</li> <li>・介護職場の魅力や制度を広く周知するため、高校生などに介護のお仕事セミナーを行い、同時に介護人材確保事業の周知を図り介護人材確保を図る。</li> </ul>

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
	事業内容(活動実績)		対象	意図	成果
			直結度		
010	<b>高齢者在宅生活支援事業費</b>	長寿福祉	一致	直結	C
	高齢者福祉タクシー券給付事業や軽度生活援助事業(草刈り、除雪等)等、サービスが必要な要援護者へ、必要な時にサービスの支援を実施(利用実人員1,731人)				
020	<b>高齢者介護予防対策事業費</b>	長寿福祉	一致	直結	B
	高齢者の心身の健康増進と交流の促進のため「湯のまちホット交流サービス」60歳以上の方が4人以上で構成され団体に対し、温泉等への入浴と交流の場の提供(延べ利用者数27,112人)				
030	<b>高齢者福祉サービス提供事業費</b>	長寿福祉	間接・少数	間接・補完	-
	生計困難者に介護保険サービスを提供するため、介護サービス事業者への助成を通じ、利用者負担の軽減を行う。				
040	<b>高齢者福祉サービス基盤整備事業費</b>	長寿福祉	間接・少数	間接・補完	B
	高齢者福祉サービス施設等の整備促進のため、社会福祉法人等に対し施設整備に係る経費等の補助(特別養護老人ホーム施設等入所定員1,570人)				
050	<b>高齢者交流活動支援事業費</b>	長寿福祉	一致	間接・補完	B
	高齢者が健康で生きがいを持った暮らしができるようにするため、「ふれあい・あんしん交流」の場に対して支援を行う(サロン設置数236団体)				
060	<b>高齢者社会参加活動支援事業費</b>	長寿福祉	一致	間接・補完	C
	高齢者の健康維持、生きがいづくり、友愛活動、社会貢献活動等を実践する老人クラブの活動及び高齢者の活躍・生きがいの場の創出を支援するための補助				
070	<b>高齢者保護措置事業費</b>	長寿福祉	一致	間接・補完	-
	経済的、環境的要因等により居宅養護の困難な高齢者を養護老人ホームなどへ入所措置し養護する				
080	<b>介護人材確保事業費</b>	長寿福祉	間接・少数	間接・補完	C
	介護サービス事業所等で働く人材の確保と定着を図るため、市奨学金の貸与を受けて資格を取得し、市内の介護サービス事業所へ就職しようとする方の奨学金返還の一部を補助(利用者0人)				
090	<b>在宅医療介護連携推進事業</b>	長寿福祉課	間接・少数	間接・補完	-
	在宅医療と介護サービスを定期的に提供するために、医療機関と介護サービス事業者など関係者の連携を推進(在宅医療介護連携推進会議開催8回、在宅生活を支える多職種が集う会開催3回)				
100	<b>地域介護予防活動支援事業</b>	長寿福祉課	一致	直結	-
	市内全域に高齢者が容易に通える範囲に「通いの場」を展開し、住民主体で体操などを行いながら生活機能の向上や介護予防につなげる取り組みを支援(「通いの場」取組団体108団体)				
110	<b>生活支援体制整備事業(総合事業)</b>	長寿福祉課	一致	間接・補完	-
	生活支援の担い手となる住民ボランティアの養成及び地域団体が総合事業の生活支援事業を行う場合の事業立ち上げ補助(ボランティア養成60人、地域団体立ち上げ2団体、ご近所サポーター実施件数247件)				